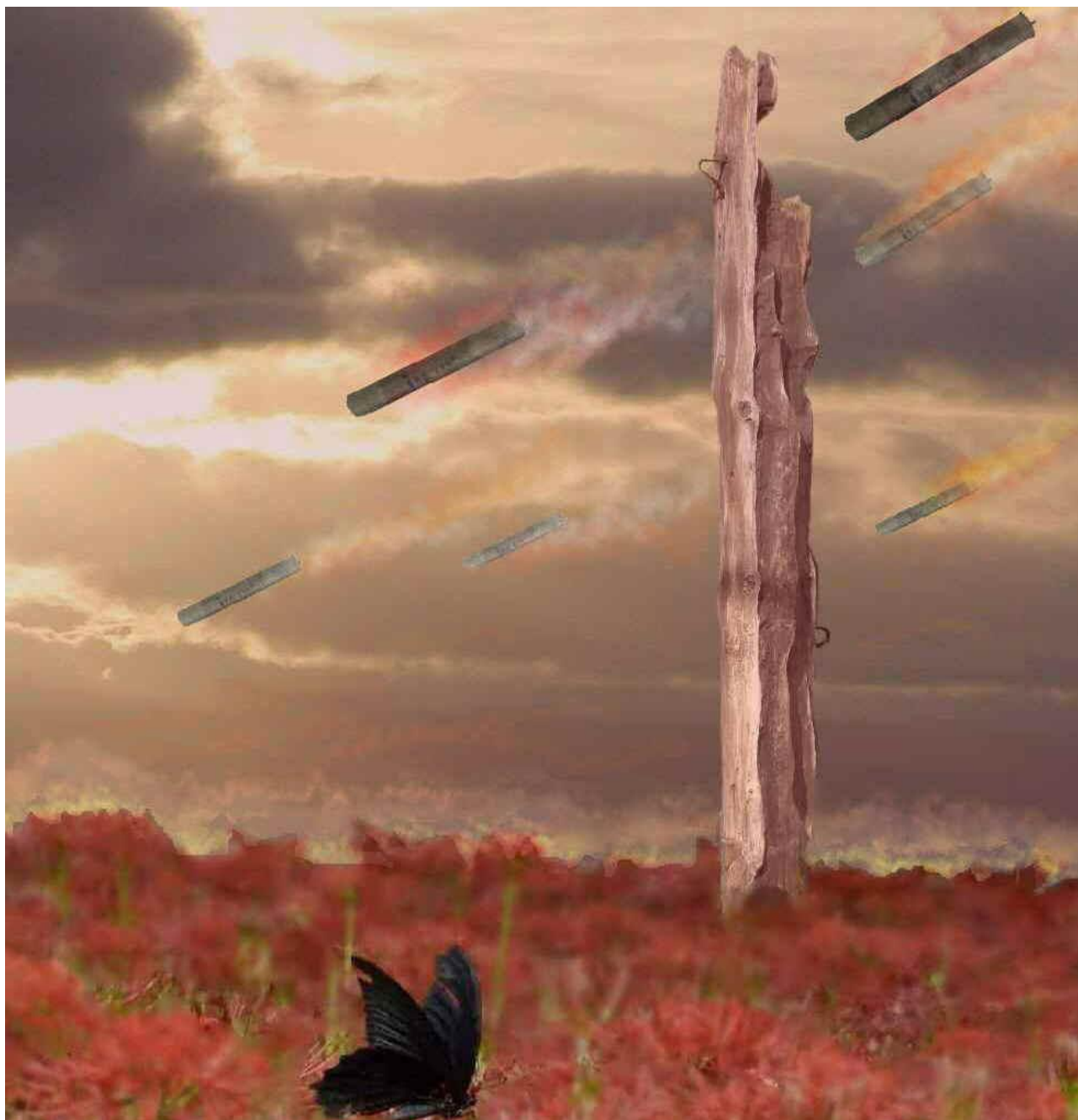


月刊 JMITU ティニコカ



すみだ郷土文化資料館にて「東京大空襲 80 年—企画展—」が行われています。本所吾妻橋駅より徒歩 7 分。隅田川散歩のついでに立ち寄って見られたらいかがでしょうか（2 月 15 日～5 月 25 日まで）尚、ディスク表紙の写真は企画展とは関係ありません。

2月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2025 年発行

No.482

25年春闘要求提出

私達JMITU労働組合は、
2月19日に、セガ及びSLS
に対し、秋闘・年末一時金要求
を提出いたしました。

セガへの要求

・基準内賃金を3万円引き上げ
ること。査定しないこと。

・アルバイト、パートタイマー
の時給を最低2000円以上
にすること。退職金制度を設け
ること。

・アルバイト、パートタイマー、
派遣・請負社員を本人の希望が
あれば正社員にすること。

・1日実働7時間、週5日制、
35時間労働とすること。

・希望する者には定年退職を
65歳までにすること。

・高齢者再雇用における有期
契約社員の給与を、定年時の月
額基準内賃金の80%で算定
し支給すること。希望するもの
には70歳まで再雇用するこ
と。

・リロクラブポイントを年間5
万円分にすること。アルバイト、
パートタイマーにもポイント
を付与すること。

・事業所の移転・統廃合、会社
分割・合併・営業譲渡など企業
組織の変更、子会社の設立、海
外への生産移転、工場・営業所
の進出、新業種の進出・業種転
換、資本の移動、企業間提携、
廃業、企業倒産にかかわる私
的・法的手続きの申立・実行、
その他、重要な経営施策の変更

については、労働組合と事前に
協議し、同意を得たうえで実行
すること。

・退職金を、勤続1年につき基
準内賃金の2ヶ月分とするこ
と。

・家族手当を配偶者3万円、
子2万円とすること。

・業務外傷病有給休暇を、一
般従業員にも現行10日から
最高60日（休日除く）を与え
ること。診断書代の実費を会社
負担とすること。

・社会保険料の負担割合を労使
3対7にすること。

・勤続3ヶ月以上の、本人の結
婚祝い金を現行5万円から1
0万円に引き上げること。

・本人が結婚するときの結婚休

暇は、連続2週間とし、子供が
結婚するときには3日（休日を含
まず）とすること。

・アルバイト、パートタイマー
に社員同様、慶弔休暇を付与す
ること。

・家賃補助について家賃の3
0%を会社が支給すること。

・災害等による自宅待機や早
退・遅刻について、正規、非正
規にかかわらず賃金を10
0%保証すること

夏季一時金

2025年夏季一時金として、
基本給の4ヵ月分を支給する
こと。有期契約社員にも正社
員同様支給すること。ただし査
定を行わないこと。及びパート
タイマー、アルバイト従業員に
も、夏季一時金を支給すること。

SLSへの要求

- ・基準内賃金を5万円引き上げること。査定しないこと。

- ・アルバイト、パートタイマーの時給を最低2000円以上にすること。退職金制度を設けること。

- ・アルバイト、パートタイマー、派遣・請負社員を本人の希望があれば正社員にすること。

- ・希望する者には定年退職を65歳までにすること。

- ・昇格の基準を明確にし、社員が納得できる昇格制度にすること。

- ・人事制度において評価給がテ
- ーブルの上段に達した場合、昇格試験の機会を与えること。

- ・1日実働7時間、週5日制、35時間労働とすること。

- ・高齢者再雇用における有期契約社員の給与を、定年時の月額基準内賃金の80%で算定し支給すること。希望するものには70歳まで再雇用すること。

- ・リロクラブポイントを年間5万円分にする。アルバイト、パートタイマーにもポイントを付与すること。

- ・事業所の移転・統廃合、会社分割・合併・営業譲渡など企業組織の変更、子会社の設立、海外への生産移転、工場・営業所の進出、新業種の進出・業種転換、資本の移動、企業間提携、廃業、企業倒産にかかわる私的・法的手続きの申立・実行、その他、重要な経営施策の変更

については、労働組合と事前に協議し、同意を得たうえで実行すること。

- ・退職金を、勤続1年につき基準内賃金の2ヶ月分とすること。

- ・家族手当を配偶者3万円、子2万円とすること。

- ・業務外傷病有給休暇を、一般従業員にも現行10日から最高60日（休日除く）を与えること。診断書代の実費を会社負担とすること。

- ・社会保険料の負担割合を労使3対7にすること。

- ・本人が結婚するときの結婚休暇は、連続2週間とし、子供が結婚するときは3日（休日を含む）とすること。

- ・アルバイト、パートタイマーに社員同様、慶弔休暇を付与すること。

- ・家賃補助について家賃の30%を会社が支給すること。

- ・災害等による自宅待機や早退・遅刻について、正規、非正規にかかわらず賃金を100%保証すること。

- ・時間有給を取得できるように制度として導入すること。

- ・ガソリン価格変動に応じた、マイカー通勤手当を支給すること。

- 夏季一時金
- 2025年夏季一時金として、賞与資格別基準額を2万円底上げし、係数4.0を支給すること。有期契約社員にも正社員

同様支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、夏季一時金を支給すること。

JMITU 統一要求

JMITUは、25春闘で「すべての仲間に大幅賃上げ」に取り組みます。非正規労働雇用者や定年後継続雇用者を含めたすべての仲間の賃上げを実施し生活を安定させることは労働者全体の切実な要求です。

また、労働者のやる気を引き出し、職場に活力を生み出すことにつながり、企業にとってもプラスになります。

一、企業内最低賃金
・アルバイト・パート、派遣、請負などを含め、企業内で働くすべての労働者を範囲とする
「企業内最低賃金協定」を締結

すること。

・企業内最低賃金を月額225,000円以上、時間額1,500円以上とすること。

二、初任給

高卒初任給を225,000円以上、大卒を260,000円以上とすること。

三、年齢別最低保証賃金

年齢別最低保証賃金を以下の通りにすること。

25歳	280,000円以上
35歳	370,000円以上
45歳	440,000円以上
59歳	520,000円以上

定年後継続雇用者

60歳到達時の賃金維持

四、女性の賃金差別是正、すべての労働者の均等待遇を実現する要求

・すべての企業で賃金格差を情報開示し、賃金格差にむけた是正計画を示すこと。

・派遣労働者を含め、雇用形態にかかわらず労働時間以外は正社員と同じ賃金・処遇にすること。

・「均等待遇」を口実にした正社員の賃金・労働条件の引き下げを行わないこと。

五、奨学金返還支援制度創設
奨学金を返還している労働者について月々の返還金を支援する制度（代理返還など）をつくること。

要求の回答については両社とも3月5日(水)予定です。

掌編小説

猫の日

仙洞田一彦

ショートショート

猫

掌編小説締め切りの二月十二日は「猫の日」だそうだと、それで思い出した。

一九八一年八月『月刊ディスカ』第二号（創刊は七月）に初めて掲載された掌編のタイトルが「猫」だった。当時は「掌編小説」と言わず「ショートショート」と言っていた。

あれから四十三年と六カ月経った。「記念」なんていつても、「記念」は私だけの記念だが、思い出しついでに、当時の原文のまま掲載する。「四十年以上も経っているのに、進歩してない」などと言われそうで怖いが。

彼の猫はミーコと言い、彼はまるで恋人のようにかわいがっていた。ミーコの方も心なしかそんな風に振舞っているようにも見えた。彼が呼ぶと、どこにいても飛んで来る。ミーコを抱いたまま立ち上がった彼は、けたたましい爆音を残して走り去ったオートバイの行方を、いまいましそに見送った。そのオートバイは毎夜十時頃になると、彼のアパートの前の通りを走り抜ける。怒鳴りつける勇気がないだけに、そのけたたましい爆音の男を殺したくなる思いはつのった。誰でも自分の

静寂を破られることは、我慢できないことだ。

夜毎、彼の殺意は強まっていった。

ふと彼は、以前誰かが大よみ猫の方が車にひかれる事が多い、それは猫の方が車におびえる度合が強いからだ。強度のおびえから、車が近付くと逆にそれに吸い込まれるように飛び出すんだ。——と、言っていたことを思い出した

数日後、小雨の降る晩に、けたたましい爆音の男はガードレールに激突して死んだ。そばに猫のれき死体があった。警察にとっては、その猫の名がミーコであり、飼い主が彼であったということは、どちらでも良いことだった。

数年後、彼はなぜか免許を

取り、ナナハンを乗り回すようになった。そして——小雨の降る晩、彼は彼のアパートの前でガードレールに激突して死んでしまった。警察の報告書は、遠出の帰りの居眠り運転、としてあった。

しかし、近所の人は事故の直前、「ミーコッ!!」という彼の恐怖の声をたしかに耳にしていた。

以上。まさに「ショートショート」で短い。いま読み返してみると、あちこち手を入れたところだが、記号など含めて当時のままにした。自分の作品だから「盗作」にはならないと思うが、昔話だから昔のままに……と、あまり理由にならないが。

当時掲載したところ「猫を殺人の道具にするとはひどい」と抗議が来た。愛猫家と言われる人はどこにでもいる。無論、友人にも。

別に猫が嫌いなわけじゃないけど、飼っているというか同居している人のころもちにまで思いは及ばなかった。

しばらく経って、別の方からは「人が死ぬことを軽々しく書いてはいけない」というようなことを言われた。

当時、他人のショートショートも読んでいたが、なんとなく、ショートショートという人が死ぬことが「オチ」のようなイメージがあったのかも知れない。それを聞いてから、人が死ぬことは書かなくなつたような記憶がある。

作中の「猫」も「彼」も生き

ているとするとどうなるだろうか。

彼はガードレールに激突し、ナナハンは使い物にならなくなったが、命は奇跡的に助かった。猫のミーコも、彼がアパートの庭に埋葬していたが、彼が退院してきた夜に復活して来て、再び一人と一匹、一緒に暮らすようになった。

それから四十三年と六カ月。彼は七十九歳になった。あの事故が今になってたつたのか、小さい車輪が四個ついてる歩行器なしでは外を歩く事が出来なくなっていた。ミーコは歩行器につないだ紐につながれて、いつも一緒に散歩している。猫も四十年以上生きていたら何事も自在だ。

だから、彼と一緒に散歩しながら、時には姿を子犬に変えて愛想よく尻尾を振ったり、元通り猫に変わったりしながら、姿を自在に変え、それを楽しんで歩いていた。

寒い夜は彼の布団に潜り込んで眠る。彼の方は老いて体力がなくなつたせい、ミーコが自分の体の上に寝ていて、決まって苦しくて目が覚める。だから寝る時は、ミーコを部屋から追い出し、ふすまを閉めて眠る。

ふすまを閉めて寝ても、苦しくて目が覚めると、ミーコが自分の胸の上に寝ていた。それから、彼は眠るとき、ミーコを紐に結んでテーブルの脚にその紐を結わえ付けた。ふすまも閉めて寝た。猫は四十年以上生きていたら檻に入

れようと何しようとか関係ないのだ。冬の朝はいつも彼の布団の上で、温かく気持ちそうに眼を閉じて寝ていた。

とっても寒い、ある朝。彼の布団の上で、ミーコがニャーニャーニャー悲しそうな声で鳴いていた。彼が掛けて寝ていた布団が、外の空気と同じように、すっかり冷たくなっていた。

ここところ一八〇〇年代、一九〇〇年前後のイギリスの作家の短編小説を読んでいたせいだろうか、変な結末になつてしまった。現実と神の世界が入り混じつてしまったようだ――とすぐ、他人のせいにするだが。